

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年3月29日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4673400091
法人名	社会福祉法人 曙福祉会
事業所名	グループホーム 永喜村
所在地	鹿児島県日置市吹上町永吉14145番地 (電話) 099-299-3480
自己評価作成日	令和6年2月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム永喜村は、平成23年7月に喜楽奈里と村長の家の2つのグループホームが合併して永吉に開設した。開設当初からの職員も多く、離職率も低く働きやすい職場である。地域との交流を大切にしており、近隣の小学校や商店、理髪店や病院など馴染みのある関係で生活されている。行事については、コロナウイルス感染拡大以前は夏祭りや文化祭、年に2回開催される地域の市にも、カフェを出店して町内外の方に手作りケーキやお団子、お漬物や飲み物などを無料で提供していた。また、ボランティアの方の訪問もあり、音楽や踊りなどの披露もあった。5類に移行したこともあり、以前の生活が送れるよう取り組んでいきたい。日々の暮らしでは、利用者様の出来る事を把握し、孤立しないよう関わりを大切にしている。外出も徐々に再開しており、町内ドライブやお花見、初詣などにも行かれている。食事については、料理の得意なスタッフが多く、利用者様も喜ばれている。ご家族様の面会も多く、気兼ねなくいつでも面会ができ、ご家族様も利用者様も良い関係が継続できている。ご家族様もスタッフに話しやすい関係性が築けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、玄関の両側に各ユニットが設けられており、ユニット間は利用者も自由に往来している。居室は掃き出し窓になっており、コロナ禍では居室の窓越しに面会も行われた。
- ・管理者・職員は、利用者と家族のこれまでの関りが継続できるよう、居室面会や外出での交流に取り組むとともに、ラインを活用して動画の送付や細やかな連絡・近況報告を行っている。
- ・地域との交流は地域の市の見物や文化祭出展・学生の職場体験学習・中学校の認知症対応の出前授業等、少しずつ再開している。また、外出している利用者を心配して地域住民から連絡を受けることがある等、日頃から地域の見守りと協力がある。
- ・施設長・管理者は、休憩時間の確保や職員の個々の事情を配慮した働き方を支援し、働きつづけられる就業環境づくりに取り組んでいる。また、資格取得や研修受講を支援し職員の質の向上を図っている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を目に付く場所に掲示したり、事業所でお揃いの理念入りTシャツを作り意識を高めている。理念は職員皆で考え、1年に1回確認と見直しを行っている。	理念は食堂や廊下の目に付きやすい場所に掲示し、各自で確認しながらケアに当たっており、パンフレットにも掲載している。毎年理念の見直し及びケアの振り返りを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として自治会にも入り、地域の情報を把握したり、地域のお店を利用しながら交流をしている。また、児童クラブを併設しており、地域との繋がりを大切にしている。	自治会に加入し回覧板で地域行事等の情報を把握している。文化祭への出展や年2回地域の「市」の見物、野菜の差入れもあり住民と交流している。中学生の職場体験学習や中学校の出前授業にも協力している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	例年、地域で催される市の時には、カフェを開き、施設見学をして頂いたり、独自で開催する「七夕ひろば」では、地域の人達に来てもらい、介護予防などの教室を開催していたが、今年度もコロナウイルス感染拡大防止の為、自粛となった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な会議を開催し、施設の現在の状況やヒヤリハット・事故報告の説明などを行ったり、外部や内部から課題を出したり、災害等について意見交換を行っている。	2ヶ月に1回の運営推進会議を実施し、事業所の状況報告及び意見交換を実施している。災害やコロナの感染対策、ヒヤリハットへの取り組み等について、様々な立場から出される意見を、サービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	支所に書類提出などで出向いた際、担当者と直接話をするなど、かねてから、相談しやすい関係を築くよう努めている。また、運営推進会議や、行政主催の研修会には毎回参加するなどして、関わりを持っている。	市の担当者とは、運営推進会議時の意見交換やメール・電話で日頃から情報交換を行って連携を図っており、報告や相談に出向くこともある。市の研修や集団指導に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所内では、年に4回程、身体拘束廃止委員会の勉強会があり、職員全体で身体拘束がないか、それにあたらないかの確認を行っている。無断外出の時には、地域の協力を頂いている。	指針があり、年4回委員会及び研修会を実施し、運営推進会議時に委員会報告をしている。法人の委員会も年2回実施している。不適切な言葉は研修で取り上げて注意を促しており、玄関の施錠はせず外に出たい利用者と一緒に庭の散歩やドライブをしている。気付いた住民から連絡を受けることもある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回、高齢者虐待防止委員会による勉強会を行い、職員全員で虐待防止に努めている。また、身体拘束廃止の勉強会と関連付け、自分達のケアが身体拘束や虐待にあたっていないか確認を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度などの研修については、年間研修計画の中に盛り込み、皆で研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に、文書で分かり易く説明し、不安や疑問が無いかを尋ね、理解や納得して頂けるように配慮している。加算の変更や改定などがあつた際には、文書を配布して署名と捺印をもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時、電話時などに話を伺い、苦情や相談を受け付けると、専用用紙に記入し、全職員に報告をするようになっている。その後、解決策や結果などを明記し、ミーティングで報告するようになっている。また、ケアプランの面談時に意見や要望を利用者、家族などに何うようにしている。	利用者の会話で外出や食事の要望を聞き、反映できるようにしている。家族には電話やライン、面会時に要望を聞いており、居室面会や外出・外食も要望に沿って対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃から、何でも話せるような関係性、環境作りに心掛け、休憩時間など色々と話しが出来ている。ミーティングや会話の中で出た意見を反映できるように努め、法人全体では、年末や年度末に代表者に意見や要望などを伝える機会があり反映されている。	ケアに関する意見は、毎日の申し送り時に検討し対応している。月1回合同ミーティングでは、入浴を2ユニットで交互に実施し活動時間を確保する等、業務改善に反映させている。個人相談は管理者が受けて対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個々のライフスタイルに合わせ、働く時間や日数、休み希望などの配慮がされてる。家事や介護、レクリエーションなど、それぞれの得意分野が仕事に生かされている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度計画の中に施設内外の研修が組み込まれており、それぞれ職員に振り分けて学ぶ機会を設けている。資格取得への支援も行っている。感染症対策ということもあり、リモート研修で受けやすくなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内研修や看護師連絡会、市の事業所連絡会など、他事業所職員と意見や情報交換を行いながら、サービスの質の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族から聞き取りを行ったり、他事業所からの情報提供書を参考にしながら、困りごとや不安がないかの把握に努めている。利用時には不安を感じないよう、表情や言動に配慮しながら寄り添い、様々な場面で、笑顔での声掛けを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問時や入居時に本人や家族から困りごとや不安などを聞いている。利用して間もない頃には、些細な事でも電話や面会時に本人の様子を伝えながら、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問の面談や情報提供書をもとに必要な支援を見極めてケアプランを作成している。早く新しい生活に馴染んで頂けるよう、丁寧な声掛けを心がけ、安心して生活できるよう環境作りに配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、家事やレクリエーションを一緒に行っている。年間を通して季節の行事を計画し、利用者に教わりながらすることもある。一緒にすることで信頼関係が深まっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、現状や嬉しい出来事などを伝え、月に1度、お手紙や写真を添えて郵送している。また、状態などに変化があった場合には、その都度電話で連絡をしたり、いつでも電話を取りつけるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に行きつけの病院、お店、美容院、お寺、神社などを聞き、本人が通っていた場所に今まで同様に行けるように支援している。今年もコロナウイルス感染拡大防止の為、外出が制限されたが、地域の市見物やお花見、ドライブや散歩などが行えた。	馴染みの美容院利用や初詣・市の見物・自宅訪問等、これまでの生活で行っていたことを継続できるよう取り組んでいる。家族との居室面会や外出を支援し、家族との繋がりが途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係を把握し、食席や外出時の配車、入浴の順番などに配慮している。話すことや集団に入るのが苦手な利用者には、寄り添ったり、同じ空間を共有することで孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、感謝の気持ちをお手紙に書いたりしながら、関係性を大切にしている。家族から相談があった場合には、話を聴いたり、アドバイスをできる範囲で行い、次へ繋げられるよう支援している。退居された後でも、他事業所への再度申し込みもあった。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	これまでの生活状況を利用者、家族に聞き取りを行っている。職員全員が1人1人の思いや意向に関心を持ち把握しようと努めたり、ケアプランの見直しや更新の際、本人やご家族に希望や要望を聞きながら本人の思いに少しでも近づけるよう努めている。	ゆっくりお茶を飲んでいる時などの会話で、本人の思いを把握できるように努めている。困難な場合は、家族の情報や職員の日頃の関わりの中での情報を参考に、本人の思いをくみ取るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族、ケアマネ、それまでに使用していた施設事業所などから情報提供をして頂き、今後の生活に活かしている。法人内のサービスを利用していたら、関係職員からも情報提供をして頂き、把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	検温やバイタルチェックを毎日行い、記録を残し、変化のある入居者がいた場合には、申し送りを確実にやっている。日々の暮らしの中で、出来ることを無理のない範囲ですて頂いている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回のユニットミーティング時、それぞれの入居者について担当者を中心に、カンファレンスやモニタリングを行っている。状態変化やケアプラン更新、見直し時に、本人、家族から希望、要望を聞いている。主治医の意見も伺い、介護計画に反映している。	家族に希望を電話や面会時に聞き、ケアカンファレンスでの職員の意見を加えて介護計画を作成している。モニタリングは6ヶ月毎に実施し、1年毎及び状況変化時に見直しを行い、現状に合った介護計画にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録を意識している。また、気づきや工夫を行った際には、連絡ノートや記録に記載して情報を共有している。ミーティング時、利用者の状況を職員で確認しあい、介護計画に結び付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事形態や介助方法を変更したり、医療が必要になった時には、通院援助や往診などの依頼をしている。また、本人や家族のニーズを見極めながら、可能な範囲で提供できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年は小学校の運動会や音楽会、夏祭りや文化祭、お寺参りや初詣に参加したり、近隣の商店などを利用しているが、今年度はコロナウイルス、インフルエンザ感染症拡大防止の為に、行事やボランティアの交流は見合わせている。行きつけの理髪店へは行けた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続し、本人、家族、医師との連携を密にとっている。入居前からのかかりつけ医に受診する事で、本人の事を主治医も理解しており、迅速に適切な医療が行えている。また、家族が病院受診を希望した時には、直ぐに受診ができるように連携を図っている。	契約時にかかりつけ医の希望を確認し、継続受診を支援している。2ヶ所の医療機関と2週に1回の往診や24時間医療連携体制が行われている。他科受診は家族対応を基本としているが、職員の対応もある。歯科は往診を利用している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日検温をして記録に残し、バイタルチェックでの異常、転倒やケガ、状態の変化などがあつたら直ぐに看護師に報告し、かかりつけ医に連絡が行くようにし、オンコール体制も整備されている。緊急時の病院も基本台帳に記載され、一目で分かるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は必ず看護職員、もしくは管理者が付き添い、入院中は病院に様子伺いの電話をし、治療の経過や退院の目途など確認をしながら関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や面談時（カンファレンス）に重症化した場合、どのような介助ができるか、ホームで出来ること、出来ないことを家族に説明している。重症化した利用者も、本人、家族の意向を聞き、主治医と連携を図りながら、可能な限りグループホームで過ごして頂いている。	契約時に、重度化等の場合の対応について選択肢も含め指針で説明し、同意書をもらっている。入居後も段階的に本人・家族の意向確認を実施している。重度化の場合、医師から家族に病状説明後に意向を確認し、主治医と連携して支援に取り組んでおり、見取り介護の事例がある。研修及び看取り後のカンファレンスを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の研修を受けたり、全体のミーティングなどで事故発生時の対応を共有している。また、看護師連絡会で話し合った事や決まった事などを、朝礼やミーティングで報告している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回、火災、水害、地震などを想定した防災訓練を行っている。非常通報装置を押すと、消防だけではなく、地域の方にも連絡が行き、協力して頂ける体制になっている。台風など事前に避難準備できるものに関しては、法人と連絡を取り、必要に応じて避難している。災害時のBCP作成もできている。	年2回昼夜想定避難訓練を、1回消防署の立ち合いを受けて実施し、運営推進会議委員も参加している。毎月、地震・水害・火災の自主訓練を実施している。緊急通報装置に消防団員の登録協力があり、地域との協力体制を築いている。非常用の備蓄は、3日分の水・レトルト食品・缶詰等の食料を準備しており、発電機も設置している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	合同ミーティングの中で、接遇委員会の勉強会を行い、自分のケアや声掛けなどを見直して日々のケアに活かしている。利用者のプライバシーの確保を職員同士で心掛けている。	接遇研修を実施し、入室時やケア前の声掛け、ベッド上での排泄介助時は戸やカーテンを閉める、申し送りは事務所で実施する等、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアプラン更新、見直し時、本人の希望や要望をお聞きしている。また、食事の嗜好を把握し、苦手な物があれば代替えをしている。意思決定の困難な場合は、表情や仕草を見て、本人の気持ちを汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起きたい時、寝たい時、食べたい時、外に行きたい時など、本人のペースや生活リズムに合わせながら暮らしている。行事やレクリエーションの参加は、無理強いしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	拝賀式や敬老会、誕生会などの行事では、その時に合った洋服を本人と選んだりしている。また、訪問カットを利用しながら、身だしなみを整える支援が出来ている。お化粧をすると喜ばれている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の状態に応じて、食事形態を変えている。旬の食材を頂いた時など、利用者を交えながら献立を考えたりしている。また、野菜の下ごしらえや盛り付けなどを利用者と一緒にしたり、片付けや下膳をされたり、台拭きなどを手伝われている。	管理栄養士の献立を参考に、ミキサー食等の個々に応じた食事形態で提供している。利用者も一緒に下ごしらえや盛り付け、茶わん洗いをしている。誕生日の好物・ケーキ、季節の行事食等も工夫して提供している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量が少ない時には、本人の好む物や代替品（高カロリー食）を準備している。栄養士の献立を参考にしながら、バランスの良い献立となっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状況に応じて、介助や見守り、口腔ケアを行っている。残歯を磨く際の歯ブラシや舌ブラシ、スポンジブラシなどを使用しながら、歯科往診にもきて頂き、個々に応じた支援が来ている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを活かし、トイレの声掛けや食事前後にトイレ介助を行っている。立位が困難な利用者でも、スタッフ2名でトイレ介助を行い、腹部マッサージをしながら、自然なかたちで、排泄が出来るように支援している。	トイレでの排泄を基本に支援に取り組んでおり、定時の声掛け・誘導を実施し、2人介助も行っている。定時声掛けで排泄の失敗が減少した事例がある。排泄用品は個々に適したものを検討して使用している。夜間のみ、オムツやポータブルトイレを使用する利用者もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩の声掛けや、ラジオ体操、トイレ時の腹部マッサージ、食事に食物繊維や乳製品、オリゴ糖などを使用しながら、自然排便を促している。また、ドライブなども良い刺激になっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	声掛けのタイミングに配慮しながら、世間話しや歌などを歌い、気持ちよく入れるように支援している。希望については湯船に入られるか、湯加減は良いかなど尋ねながら気持ち良く入って頂いている。	週2回午前中に入浴を実施し、リフト浴を活用している。必要時の2人介助や希望で同性介助にも対応している。汚染時は陰洗やシャワー浴を実施して保清に努めており、入浴を拒否する利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冬場には湯たんぽや電気毛布を使用したり、室温や湿度に気を付け、本人の活動状況に応じて、休息できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は、全職員が確認出来るように基本台帳や薬手帳ファイルに保管し、変更後には、連絡帳で全職員に周知できるようにしている。服薬時には、誤薬がないよう、二重三重のチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることや得意なことなどを把握し、その場面がある時は、腕前を発揮して頂けるように努めている。利用者同士やスタッフが、教えたり教わったりしながら良い刺激になっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	感染症拡大防止の為、家族や地域を巻き込んでの外出は難しいが、散歩や法人の所有する自然の森公園に行き、気分転換を図れるよう努めている。帰りたい気持ちが見られる方については、ドライブなどに行き、気分転換を図っている。	天候の良い日は庭や近隣の散歩をしている。年間計画を作成し花見に出かけたり、法人の公園での花や紅葉見物をして楽しんでいる。ドライブも実施し、閉じこもらないようにしている。家族と墓参り等の外出をする利用者もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理や所持については、家族と話し合いながら決めている。買い物の希望や食べたい物があれば、購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者から家族に電話の希望があれば掛けている。荷物が届いた際には、電話を掛けて本人と話して頂いている。手紙や年賀状を読むことが困難な場合は、代読をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入口にベンチを置き、外気浴を楽しめるようにしている。フロアに加湿器を使用したり、時間おきに換気をして温度湿度管理表を毎日記入している。また、季節に合った飾りを利用者と作ったり、作品を飾って季節感を感じて頂いている。玄関や食堂などに観葉植物や花を沢山飾っている。	リビングは、加湿器やエアコンで適度な環境に調節し温湿度計で管理しており、日光はカーテンで調節している。窓を開けて換気も十分行っている。季節の飾りつけや季節の花・作品を飾り、室内でも季節を感じられるようにしている。居間や廊下のソファ等で、利用者が思い思いにくつろげるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置いたり、居間にソファを置き、思い思いに過ごされている。外の花を見たり、景色を見て気分転換を図っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使用していた物（テレビ、冷蔵庫、タンス、仏壇、ベッド、椅子、写真など）を居室に置き、フローリングや畳など、なるべく利用者にあった居室作りをし、居心地良く過ごせるように配慮している。	居室にはベッドやクローゼット・エアコンが備えてあり、本人は、使い慣れた寝具やタンス・テレビ・冷蔵庫・仏壇・椅子等を持ち込んだり、写真を飾って安心して過ごせる部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所に道具入れを置き、本人が手に届く場所に置いている。表札は見える場所に設置し、自分の居室が分かるようにし、トイレは手すりを増やし、安全に生活できるようにしている。建物全体に手すりを設置して安全に生活ができるよう配慮している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない